

第2回未来創造・地域社会部会（令和5年7月13日） 委員発言要旨（※暫定版）

NO.	議事	テーマ	発言要旨	発言者
1	「新秋田元気創造プラン」戦略4の取組について	「目指す姿1 新たな人の流れの創出」について	就職相談においては、相談相手がいって、キャリアコンサルティングがあり、その人が求める生き方や働き方、仕事の種類などを引き出しながら、就職先を決めるという媒介の存在と質が大切である。	石田万梨奈委員
2			県内在住者が、県外に学びに行くための支援があると、秋田にいる価値が高まるインセンティブになる。	石田万梨奈委員
3			実際に秋田に住んでいる方や仕事をしている方、子育てをしている方それぞれの立場を代表して、実際に参加し、話をする機会があれば良い。	加藤未希委員
4			秋田の教育が有名なことは全国に知れ渡っていると思うので、引き続き「秋田型教育留学推進事業」に取り組むべきである。	鈴木了委員
5			保育園児・幼稚園児の時期から、秋田の自然の中で育てたいというニーズもあることから、未就学児向けの教育留学を検討していただきたい。	鈴木了委員
6			「若者の県内定着・回帰総合支援事業」において、高校生の段階から登録してもらって取組を進めているが、更に力を入れていただきたい。	鈴木了委員
7			県外の大学や企業で5年から10年程度鍛えられた後、即戦力として、県内就職する手法が一番効率だと思う。	鈴木了委員
8			厄払いなど帰省のタイミングに、市町村と連携しながら、Aターン就職などの資料配布をしてはどうか。	鈴木了委員
9			仕事や地域づくりを通じた人材の誘致と関係人口のためには、受入側の活動の活性化も同時進行で進める必要がある。	原田美菜子委員
10			地域に関係したい側と受入側がお互いに得るものがあるような取組を計画する必要がある。	原田美菜子委員
11			高校卒業後から20代くらいの方々をターゲットに、秋田を第2のふるさとと感じてもらえる交流イベントやホームステイのような取組ができないか。	原田美菜子委員
12			企業の研修については、秋田の大自然を感じながら実施できるように取り組んでみてはどうか。	石田万梨奈委員

NO.	議事	テーマ	発言要旨	発言者
13		「目指す姿2 結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現」について	(No12にある) 交流イベントにおいて、地元の同年代の方々と交流してもらい、出会いの場や結婚、秋田で家庭を持つということにもつなげていけるのではないかと。	原田美菜子委員
14			保育園等の一時預かりの受入枠が不足しているため、身近で託児や一時預かりをしてもらえる環境があれば良い。	加藤未希委員
15			子どもを少し預けて、気軽に育児相談ができるなどの環境を民間で運営することは難しいので、そういった環境整備を県や市町村と上手く連携して取り組んでもらいたい。	加藤未希委員
16			結婚支援として、コンサートやスポーツの力を借りて、好きなことが共通している人たちを後押ししてあげる取組をしていくべきである。	鈴木了委員
17			出会いの機会の提供については、女性が参加しやすいように、セーフティネット面を事前に説明し、安全面に配慮していることを理解してもらうなどの精神面のフォローが大切である。	原田美菜子委員
18			キャンプや登山などの結婚を考える世代が好きな趣味を大いに活用すべきである。	原田美菜子委員
19			結婚支援センターの方が、どうだったら良いのか、将来どうしていきたいかという思いを引き出すことが大切である。	石田万梨奈委員
20			結婚したい方が、自分自身の価値観に向き合える機会をつくれると良い。	石田万梨奈委員
21			興味があるコンサートやスポーツ観戦などに、未婚の同僚同士と一緒に参加できる仕組みが企業にもあると、非常に良い。	加藤未希委員
22			過去のイベントに参加した女性にインタビューをすることも大切である。	原田美菜子委員
23			30代、40代の方に対して、家庭や仕事以外のサーブレイスを増やしていくべきである。	石田万梨奈委員
24			病院はみんなにとって大切な施設であるので、行きやすい病院が一つでも増える、又は維持していくことに取り組むほか、PRもしてもらいたい。	鈴木了委員
25	誰かが企画したイベントなどに参加するのではなく、若い人同士で自ら企画する手法もあれば良い。	能登祐子部会長		

NO.	議事	テーマ	発言要旨	発言者	
26		「目指す姿3 女性・若者が活躍できる社会の実現」について	若者チャレンジ事業では、採択された方が県外に学びに行っており非常に良いと思う。更にオンラインの活用など幅広くやる方法があれば良い。	能登祐子部会長 石田万梨奈委員	
27			子どもたちの教育が重要であり、副読本を利用しながらアンコンシャスバイアスを学べる機会を取り組むべきである。	能登祐子部会長 石田万梨奈委員	
28			男女共同参画に関するイベントやセミナーを実施する際には、企画力が大切である。	石田万梨奈委員	
29			パートナーである夫の理解が大事であり、夫婦でも勉強していく必要がある。	能登祐子部会長 加藤未希委員	
30			女性の自治会長が全く増えていないので、女性自身の意識改革も必要である。	能登祐子部会長	
31			男性は男性で縛られていることや逃れられないこともあるので、これは問題である。	鈴木了委員	
32			お互いが支えること、尊重することを、大人たちが意識するとともに、そういう地域にすることが重要である。	能登祐子部会長	
33			女性が地元に戻ったときに古い慣習が息苦しいという理由で、女性が県外に流出している状況を知らない人はたくさんいるので、啓発活動に強力に取り組むべきである。	鈴木了委員	
34			「目指す姿4 変革する時代に対応した地域社会の構築」について	地域につながりが無い方が関係を持てるよう、県のLINEで地域の行事やごみ収集などの地域に特化した情報についても配信できるようにしてほしい。	原田美菜子委員
35				地域コミュニティを維持していくため、市町村と連携しながら、地域に関する専門家の派遣に早急に取り組むべきである。	鈴木了委員
36				世代間交流が少なくなっており、地域の方や、おじいちゃん・おばあちゃんたちと一緒に交流をすることが大切である。	加藤未希委員
37				地域活動は、みんなで分担して支えるとともに、女性や高齢者、若者たちを巻き込みながら実施することが大切である。	能登祐子部会長

NO.	議事	テーマ	発言要旨	発言者
38		「目指す姿5 脱炭素の実現を目指す地域社会の形成」について	ごみの削減など持続可能な資源循環については、県で目指すレベルを提示し続けることが大切である。	原田美菜子委員
39			子どもたちに環境教育を進めていくべきである。	能登祐子部会長
40		「目指す姿6 行政サービスの向上」について	人口減少が進む中、効率的な生産性向上に向けては、デジタル・ガバメントの推進が重要である。	石田万梨奈委員
41			生活排水処理施設は誰でも使う施設なので、合理化について考えていることは非常に有り難い。	原田美菜子委員
42			申請事務自体は一元化を進めていくとともに、電子申請を更に推進していくべきである。	原田美菜子委員
43			協働によるまちづくりは、努力しながら、分からないところは伴走しながら、協力してお互いに助け合うことが大切である。	能登祐子部会長